

特集

私のキャリアを築いたのは、
いろいろな国と人々との出会い

基調講演：S&R財団最高経営責任者(CEO)兼理事長 久能 祐子 (くのう さちこ)さん

プロフィール

生化学・生物工学のバックグラウンドを元に、日米で創業ベンチャーを共同創業し、新規医薬品の開発・販売に成功。現在は自ら設立したS&R財団理事長/CEOとして、アート・サイエンス・ソーシャルアントレプレナーシップを統合的に支援するインキュベータ事業を推進している。

雑誌フォーブスが2015年に発表した「アメリカで自力で成功を収めた女性50人」では、唯一の日本人としてリスト入りした。

【略歴】工学博士(京都大学)。ミュンヘン工科大学、新技術開発事業団での先端研究を経て、1989年に日本で株式会社アールテック・ウエノ、1996年に米国でスキャンポフォーマシューティカルズ社を起業した。2000年S&R財団設立、理事長兼CEO。

※10月19日大阪市立大学で行われた、平成30年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウムで久能氏が講演された内容をご紹介します。
主催：大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社

「大発見に命を吹き込みたい」と
研究者から起業家に転身

私は山口県のお小さな町に生まれました。高校生の頃は非常に人とコミュニケーションを取るのが苦手で、「なるべく人と話さなくて済む研究職がいい」と、科学者をめざして京都大学工学部に入學しました。

最初のターニングポイントはドイツのミュンヘン工科大学に留學したことです。ミュンヘンという、誰も知り合いのいない新しい場所で「自分ひとりだけで決めるしかない」という経験ができたのは大きな財産になりました。

帰国して博士号を取得したあと、三菱化学生命科学研究所やJST(科学技術振興機構)の特別研究や治療薬の開発に携わるなど科学者の道を歩きました。その後、期せずしてバイオテック起業家となるのですが、そのきっかけが、共同創業者である上野隆司博士との出会いでした。上野博士は革新的なアイデアの持ち主で、損傷した細胞だけが生体内で修復していく現象「プロストンテクノロジー」を発見し、「大発見に命を与えたい」という思いを抱いて起業し、私たちはふたつの薬を開発することができ、その後いろいろな賞もいただきました。

最初の会社は大阪で作りました。当時、バイオテックカンパニーを作りたくてもお金を出してくれるところがなく、上野博士の父親が経営していた会社にスポンサーになってもらい、その工場の一部を借りて企業内起業しました。上野博士の研究をもとに94年に緑内障治療薬である「レスキュラ点眼液」を発売し、大成功を収めることができました。

その後も新薬開発を続けようとしたものの、国内では難しく、1996年に上野博士と渡米。創業ベンチャーを共同創業し、再出発しました。2006年には申請から10か月という早さで慢性特発性便秘症治療薬が承認されアメリカで発売されました。

なぜ怖くなかったのか？

新薬の開発は、巨額の資金が必要で、資金難に苦慮することも多々ありました。失敗のリスクも大きいですが、【なぜ怖くなかったのか?】度々聞かれる質問ですが、答えは「私には山が見えていた」のです。遥か高く険しい山であっても、そのゴールがくっきりと見えているなら、勇気をもって進んでいけばいいのです。重要なのは、「セルフエフィカシー」つまり「自己効力感、自分を信じる力」だと思います。

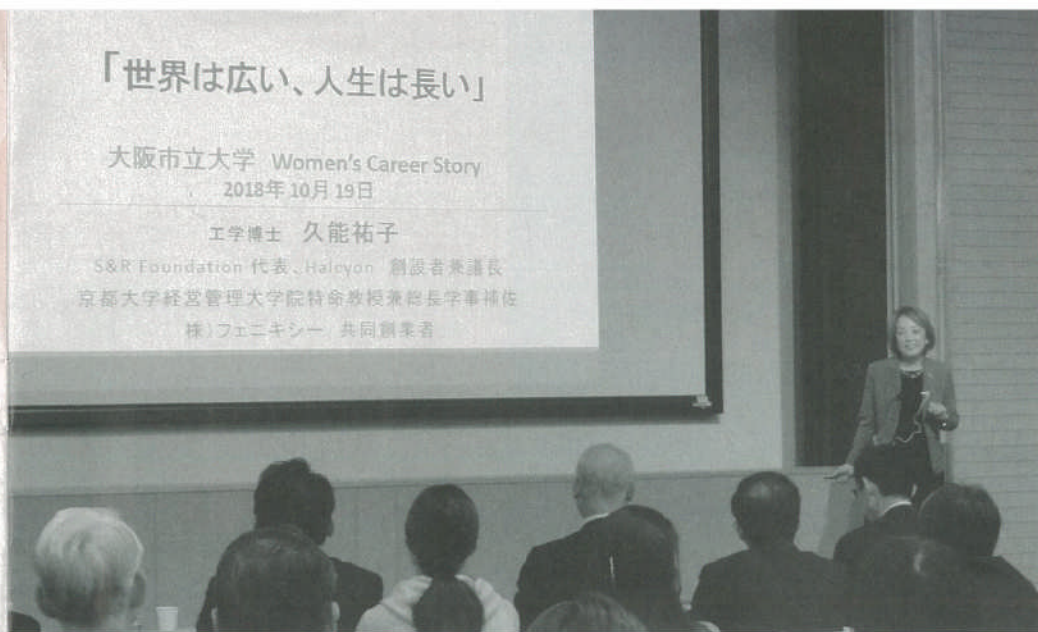
また、イノベーションを起こすとき、大きなステップを飛ぶときに、一人なら飛べることがあります。イノベーションとは、次元が全く異なってくるので、大勢では飛べないのです。

「世界は広い、人生は長い」

大阪市立大学 Women's Career Story
2018年10月19日

工学博士 久能 祐子

S&R Foundation 代表、Haleyon 創設者兼議長
京都大学経営管理大学院特命教授兼総長学事補佐
株)フェニキシー 共同創業者

ピンチもチャンスも前からやってくる。
だからこそ前を向こう

現在はワシントンD.C.を拠点に若い人たちの社会起業家や科学者、アーティストを支援するインキュベータ事業を推進しています。また、女性起業家に対する投資を促進するためには女性の投資家を育てる必要性を感じ、2016年にはワシントンD.C.を中心に活動する女性投資家グループ、WE Capital(ウィーキャピタル)*を立ち上げました。

決して私は22歳のときに自分の人生が見えていたわけでもないし、目標を作っていたわけでもありません。目の前にやってきた希望、夢、困難を解決するために一生懸命でした。

私たちは不確実な世界に生きているからこそ、前を向くことが大切です。チャンスもピンチも前からやってきますよね。そして、ワーストケースを考えておくこと。もちろん失敗することはあります。だけど、その時に生きていけるかどうか。私は「もう死ぬしかない、というようなことはほしくない」と決めています(笑)。そして、ワーストケースがわかれば、あとはドリームケースだけを考える。そうすると前に向かっていけるので、小さなステップでも、自分が持つビジョンに向かえるのではないかと思います。



*WE Capitalは、これからの世界を変革していく次世代の女性起業家が力をつけることを目的に資本を準備するピジネスウーマンのためのコンソーシアム(共同事業体)です。そのミッションは、社会的インパクトを促進すること、財務リターンを生み出すこと、この2つの目的を持ち、女性のリーダーシップを提唱し、投資を行うことにあります。そして女性起業家が自分たちの価値を高め、変革を推進するために必要なサポートを提供しながら、さらに女性投資家にも新たな機会を提供することです。<https://wecapital.co/#>